

Part.2 電飾系パーツで個性をアピール

マフラーやキャブレター交換ほどのパワーアップやパフォーマンスアップは望めないが、手軽に装着できてコストも安く、そして変化を楽しめる電飾系カスタムも存在する。その注目アイテムをしゃぼん玉本店で紹介してもらった

[photo & text] 山下博央



効果を体感するには 周辺の状態も影響する

エンジンチューニングやマフラー交換、そしてキャブレター交換などは大幅なパワーアップが体感でき、その効果も高いが、かかる費用は高額になってしまふ。そこで低コストで、気軽に愛車のパフォーマンスアップを体感したい人にお勧めなのが電飾系のカスタムといえる。もちろん、すでにマフラーやキャブレター交換済みで、さらなるパフォーマンスアップをという人にもお勧めできるのが電飾系のカスタムだ。そこで、お勧め電飾系カスタムを中心に、しゃぼん玉本店の山田氏に話を聞いてみた。まずは、今お勧めの電飾系カスタムは何だろうか。

「お勧めでもあり、お客さまから好評なのはプラスブースターです。選ばれる理由は装着が簡単で、すぐにパフォーマンスアップが体感しやすいということです。当店で店頭でお客さまのバイクに装着してもらい無料で体感してもらおうとイベントを年に数回行なっていますが、これを体感した人の多くはその効果に納得し、購入していただいています。トルクアップや加速アップ、そして燃費アップなど恩恵が多いだけに信頼性も高いのが支持される理由だと思います。また、車種専用設定で、人気車種に対応している点も、お勧めしやすい理由になりますね」

毎年、東京モーターサイクルショーに合わせてデモ車を製作しているしゃぼん玉だが、それらデモ車にもプラスブースターは装着されている。エンジンチューニングや吸排気系のカスタムと合わせ、電飾系カスタムでも、もはや定番なのがプラスブースターといえるだろう。また、最近ではGSXRシリーズやハヤブサなどに採用されているダイレクトイグニッションコイルに対応したプラスブースターもラインナップされており、こちらは純正のダイレクトイグニッションコイルと交換することで、点火エネルギーの増大とマルチスパークによる燃焼効率の向上がねらえる。また、その対応車種も増え、現在ではカワサキのZ1000やニンジャ1000用もラインナップに加わった。

マルチスパークで完全燃焼をねらう

オカダプロジェクトのプラスブースターは、混合気を効率的に燃焼させることに注目した点火系チューニングアイテム。その核となるのは点火エネルギーの増大とマルチスパークによる着火性能の向上だ。点火エネルギーの増大とは、プラグへの電流を増幅して火種となる火花核を成長させて燃焼効率を向上させるもの。一方、マルチスパークはノーマルでは1回だけのスパークを複数回(3回以上)点火させることで確実に点火を行ない、燃焼速度がアップすることで未燃焼ガスを低減させ、トルクアップやパワーアップのほか、始動性の向上などをもたらすのだ。

プラスブースター

①トランジスタ点火の1~4個のイグニッションコイルに対応する「タイプB」、イグニッションコイルのマイナス線に接続し、車体にアース線を装着するだけの簡単装着、本体もコンパクトな設計のため、取り付けやすい



プラスマダイレクト

②ダイレクトイグニッションコイルを採用する車両向けに開発されたプラスマダイレクト。基本性能はプラスブースターを継承し、装着は純正のダイレクトイグニッションコイルと交換するだけ



く行なわれる。イリジウムプラグは中心電極にイリジウム合金を用い、極細電極で効率的な着火性を備えたプラグである。プラグ自体が消耗品のため、定期的に交換する際にイリジウムプラグへ交換するケースも多いだろうが、イリジウムプラグの交換に対しては注意も必要だ。「イリジウムプラグへの交換はエンジンなどが正常な状態で行なうことで、始動性の向上や燃費の向上などが体感できますが、なかにはエンジンの調子が悪くなったからイリジウムプラグに換える、というケースもあります。しかし、この場合はイリジウムプラグ本来の性能を発揮できないばかりか、逆効果になる場合も

安定した電力供給をねらって

現在のバイクにはさまざまな電装部品が搭載されており、ときとして電圧の低下によって失火などにつながるケースもある。そこで、一時的に電気を蓄え、バッテリーの電圧が低下したときに蓄えていた電気を放出して電圧を安定させるアイテムも人気が高い。その代表的なアイテムはトリックスターのPPSや、デイトナのV-プロテクターだ。安定した電力供給で電装部品本来の性能を発揮させるのがねらいのパーツである。

①トリックスターのPPSは迷走電流を本体に蓄える機能と、不規則な電気を除去し、電気を安定させるコイル機能をあわせ持つ。PPSは数種類がラインナップされ、写真はスーパーバイクVerだ



②デイトナのV-プロテクターは、バッテリーからの電気をスーパーキャパシタ(蓄電池)に蓄え、バッテリーの電圧低下時に電気を供給する。バッテリーを保護するのが主な目的だ

電気系パーツ 徹底講座



取材協力
しゃぼん玉本店
愛知県で2店舗を展開するしゃぼん玉。今年で創立20周年を迎え、それを記念して9月23日(日)に愛知県・蒲郡市にあるラグーナ蒲郡にて「しゃぼん玉祭」を開催する。今回取材に当たってくれたのは、しゃぼん玉本店のハードパーツ担当の山田和弘氏。自身はプライベートでもGPZ900RやSR500などを所有し、カスタムを楽しんでいるという
①愛知県日進市藤塚7-55
②0561-72-7050
③http://www.shabondama.co.jp

電装系は単品での効果は薄くとも 積み重ねで大きな効果をねらうべき

①一般ケーブルの1/10の抵抗値を実現しながら独自の構造でスパークノイズの発生を防止し、すぐれた着火性、加速性を発揮するNGKのパワーケーブル。カラフルなキャップとコードが特徴だ



②イリジウムプラグは電極先端にイリジウムを用い、燃焼効率の向上による加速性アップや燃費向上などが期待できるプラグ。消耗部品ゆえに定期的な交換が必要がある

あります。イリジウムプラグはエンジンの不調を解消してくれるモノではありません」

イリジウムプラグと同じようにプラグコードを換えるケースも同様。エンジンが適正な状態にあつてはじめて電飾系パーツを交換したときの効果が体感できるのだ。プラスブースターやイリジウムプラグなどが点火系のチューニングなのに対し、その点火系などに電気を安定して供給することに主眼を置いたのがトリックスターのPPSシリーズや、デイトナから発売されているV-プロテクターである。V-プロテクターは大容量のスーパーキャパシタ(蓄電池)がバッテリーの電気を瞬時に蓄え、バッテリーの電圧降

下時にはV-プロテクターから電気を供給し、電圧低下を抑えることでバッテリーを保護するのが役目となる。V-プロテクターはバッテリーの端子に装着するだけなので装着は簡単だが、汎用品のため車種によってはその効果が体感しにくい面もあるという。また、電飾系のカスタムといえば、アーシングが挙げられる。その効果はどうなのだろうか。「アーシングに関しては、今は当店で扱いが少なくなってきました。ただ、一時期は流行しましたね。バイクはボディアースになっており、バッテリーのプラスから出た電流がフレームやエンジンに逃げ、最終的にバッテリーのマイナスへ戻っていきますが、各部のサビや塗装などの

被膜で妨げられています。そのためダイレクトにマイナス端子へアースを取ることで、スムーズに通電しパワーアップがはたせる、というものでした。そのため旧車には効果的ともいわれ、実際に効果が出る場合が多いですね。一方、高年式車は程度がよいので、効果が体感できないというケースもありますね」

③一時流行したアーシングは、バッテリーから出た電流をボディアースせず、ダイレクトにマイナス端子へ導くというもの。その効果は車両の状態により異なるためか、現在では沈黙化している感のあるメニューだ



④SP忠男のウルトラヒューズは、ノーマルのヒューズに比べ約6倍の電流伝達率を持つ金属を利用し、接点ロスを大幅に低減することをねらっている。その結果、トルクアップや燃費アップが期待できるのだという

